門祖隆聖人物語 第11回

550

京都で、あやうく殺されそうになった門祖聖人。しかし、逆に殺しに来た侍を、不思議な力で味方にしてしまいます。そして、これからは、京都を離れて、地方で教えを弘められることになります。その最初が、三井村（現・大阪府寝屋川市美井）です。

三井村の火消し

門祖聖人を殺そうとした六人の侍は、心を入れ替えてお弟子になるんだけれど、そのまま京都にいたら、また月明の手下がいつ攻めてくるかわからないので、ひとまず門祖聖人は、京都を離れることにしたんだ。

そして六人の侍のうち、吉川勝十郎と水野半左衛門の二人に、そのまま京都にいて、日存・日道両聖人をお守りする役目を与え、残りの四人の侍、西尾宮内、田中蔵人、尾崎伝内、桜井彦十郎と共に、淀川沿いに三井村を目指すんだ。三井村には、お弟子になった西尾、桜井の親戚がいるので、そこでお世話になることにしたんだね。

紋・雁のいわれ

門祖聖人の紋は「雁」なんだ。なぜ、この雁が門祖聖人の紋になったのか、そのいわれが、この三井村を目指して淀川沿いを歩いていたときにあるんだ。雁という鳥は、雁行といって集団で空を飛ぶときは斜行形で、一列に斜めになって飛ぶんだよ。

門祖聖人と四人の侍が、淀川の河川敷の道を歩いている時、いつもこの雁行が空にあったんだ。まるで門祖聖人の行く先を指し示すような、道案内をしているような形だったんだね。そして、このことから門祖聖人の紋になったといわれているんだ。

お寺には、お寺の紋がある場合があるけれど、この雁紋は、門祖聖人と関係のあるお寺しか使えないんだって。だから寺紋に雁が使われているということは、門祖聖人の生きていた室町時代にお寺が在ったということだから、ずいぶん古いお寺だとわかるんだよ。

門祖聖人一行を案内する雁行

本厳寺に建てられている記念の石塔

山火事が無くなった

三井村に着くと、西尾、桜井の親類で村長の役目をしていた友田善兵衛さんと馬場余治兵衛さんが会いに来たんだ。

そして友田さんは、この三井村は風が強くて時々山火事が起きるんだ、と門祖聖人に伝えるんだよ。

当時の三井村は、淀川に沿って吹く風が強く、この北から南に吹く強風で、村の木がこすれて自然発火による火事がいつも起きていたんだね。

この話を聞いた門祖聖人は、村人を集めて本門の教えを伝え、御題目を唱えて祈れば、火事は無くなると言ったんだ。この話を信じた村人は、村あげて御題目を唱えることにしたんだよ。そして、これ以来、淀川からの強風も吹かなくなり火事がなくなったんだ。これを三井村の火伏せ（火消し）というんだよ。

本厳寺のいわれ

御題目の不思議な力で村を救い、村人をご信者にした門祖聖人に、三井村にある天台宗のお寺の円澄というお坊さんが法論（どちらの教えが正しいか話し合いをする事）をしかけるんだ。円澄は門祖聖人のお話に負けて降伏し、仙林院日慶のお名前をいただいてお弟子になるんだよ、そして住んでいたお寺は、所属の信者さんごと改宗して本厳寺になるんだ。

本厳寺は、その後大いに栄えて、室町時代の末期には、法華宗の事務を取り仕切るお寺になるんだ。そして、門祖聖人のお供をして三井村に来た四人の侍は、ここに住み着き、今でもその子孫は門祖聖人の教えを伝えているそうだよ。

門祖聖人は、ここに三年ほど住まわれて教えを弘められた後、次のご奉公場所である尼崎に行かれるんだ。